

平成30年度 学 校 評 価 書 (自己評価・学校関係者評価)

山形県立長井工業高等学校

本校の教育目標

- (1)「人間性の育成」: 責任感と協調性を重んじ、礼儀正しく思いやりのある、心身共に健康な人間の育成
- (2)「創造性の育成」: 確かな学力を身に付け、創造性豊かで実践力のある、たくましい人間の育成
- (3)「社会性の育成」: ものづくりと、地域と連携した活動を通して、社会の発展に貢献できる人間性の育成

本県教育目標 : 人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり

本県教育のテーマ: つなぐ ~いのち、学び、地域~

目指す人間像: 「いのち」をつなぐ人 学び続ける人 地域とつながる人
広い視野と高い志を持って(全体を貫く基本姿勢)

【達成度】 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:まあまあ達成できた D:まだ達成できない E:全然達成できない

重点目標	評価項目	具体的方策	評価基準	目標達成に向けた取り組みと達成状況分析	達成度	次年度に向けた課題と改善策	学校関係者評価	総括
1 社会を生き抜く 確かな学力の 育成	学習指導	① 授業研究会を年2回の研究授業週間に全教科で実施し、教科指導力の向上を図る。	教職員による評価の平均がC以上になること。	朝学習のシステムが定着し、遅刻生徒の減少、落ち着いた雰囲気の中で授業に臨む態勢作りが確立しつつある。年2回の授業改善週間においては、教科を越えて授業を参観し合い、活発に意見交換が成された。また、本校の全学習の成果と言える全校課題研究発表会は昨年度以上の成果を上げレベルアップした。しかし一方で、家庭学習等生徒たちの自主的学習時間や、知識の質を高めるための読書時間は乏しい。全クラス出席状況は良好であった。また、問題を抱えて登校できなくなる生徒に対しても、きめ細かな対策が取られた。	B	専門科目・普通科目問わず「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して組織的に授業改善の研修等を行う必要がある。また、全体として学習意欲の喚起を図りつつ、上位生徒を主体的に伸ばす手立ての研究も必要である。	・全校課題研究発表会の様子から日頃の生徒の頑張りや先生方の熱い指導を知ることができた。校長先生の学校経営が保護者や地域社会にわかっていただいているように感じる。(全校課題研究発表会参加人数の多さや、中学校卒業生の保護者の話などから)	今年度も昨年度同様、地域有識者・企業経営者・大学関係者・行政関係者・PTA役員から成る7名の学校関係者評価委員会(学校評議員会と同一メンバー)を設置した。それぞれ異なる立場から多様な視点で、的確かつ温かいご意見やご助言をいただくことができた。また、本校卒業生の地元定着率の高さについてたいへん評価していただき、将来にわたって「長工生よ、地域を潤す源流となれ！」のスローガンに象徴される本校性のあり方に、期待を寄せていただいた。今後とも生徒の実態と伸ばすべき力、学校の進むべき方向性を見定めて適切な達成目標を設定し、学校関係者評価委員の貴重なご意見に真摯に耳を傾け、PDCAサイクルを確立していききたい。そして、時代を切り拓く工業人の育成を目指して、教育目標に掲げられている「人間性」「創造性」「社会性」を存分に身につけられるよう、今まで地域と協働して行ってきた様々な取り組みに磨きをかけていきたい。
		② 授業評価と学校生活アンケートを年2回実施し、授業力の向上と生徒の実態把握を図る。						
		③ 全クラス、出席率99%以上を目指す。						
		④ 授業時間以外の自主学習(朝学習、放課後の学習、家庭学習)時間の確立を目指す。						
		⑤ 朝学習や夏季休業中において、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。						
	進路指導	⑥ 進路講話・ガイダンスを各学年・各学科等で、年2回以上実施し、進路意識の高揚を図る。	教職員による評価の平均がC以上になること。	就職については昨年度に引き続いて高卒求人状況が良好であった。加えて、進路ガイダンスによる意識づけや全職員による面接指導等によって順調に内定をいただいた。公務員は陸上自衛隊1名、進学は4年制大2名短大2名医療系専門学校3名であった。山形県産業技術短期大学校へは、推薦だけではなく一般受験でも合格者を出すことができた。	B	3年間の継続的な指導によって確かな基礎学力を培い山形県立産業技術短期大学校への一般受験合格者をもっと出せるようにしたい。また進路意識の高揚を図って進路に関連する多彩な体験を積みませ、推薦入試やAO入試を活用して、倍率の高い上級学校特に国公立大工学部に合格することができる指導体制を強化したい。		
		⑦ 生徒全員が資格取得やものづくり、コンテスト等に取り組み進路目標達成の手がかりとする。						
		⑧ 就職希望者の内定率100%を目指す。(年度内内定100%)						
		⑨ 進学希望者全員の第一志望合格を目指す。						
2 社会で自立できる豊かな心と 実践力の育成	生徒指導	① 基本的習慣確立の指導をあらゆる機会をとらえて実施しながら、明るく素直であいさつのできる生徒を育成する。	教職員による評価の平均がC以上になること。	全職員の協力の下、定期的な身だしなみ指導を行い、自発的に身だしなみを整える習慣づくりを行った。また、朝の立哨指導やあいさつ運動を通して、あいさつの習慣が浸透しつつある。生徒部または外部講師による講話等の機会や日々の全職員の指導によって、問題行動やトラブルを未然に防止し、生徒の常識・良識を身につけさせることができた。	B	今後とも卒業したらずに社会人として通用する常識・良識ある生徒をそだてていかなければならない。高度情報化された現代社会の中にあつて、多くの生徒がSNSを利用している。トラブルを未然に防ぐためには、今後とも継続的に情報モラル教育を重視していく必要がある。		
		② 身だしなみ点検・改善指導を年5回以上実施し、学年・学科、および日常の授業の場で事後指導を継続し、改善を要する生徒の減少を目指す。						
		③ 規律意識や情報モラルの向上を図るために外部講師や担当教員による生徒への指導を年2回以上実施し指導を要する生徒を前年より減少させる。						
	特別活動	④ 部活動およびものづくり・コンテスト等の大会において、県大会ベスト8以上の成績達成3種目以上、東北・全国大会出場2種目以上を目指す。	教職員による評価の平均がC以上になること。	ものづくりコンテスト旋盤の部門では、県大会準優勝、電気工事部門でも準優勝であった。また、メカトロアイデアコンテストでは惜しくも全国大会に出場することはできなかったが、ハイテック賞を受賞した。マイコンカーラリー山形県大会では個人優勝、3位、学校対抗1位(5年連続)となり、全国大会11年連続出場を果たした。部活動においても柔道部個人と水泳競技個人で東北大会出場を果たした。	C	運動部については、県のガイドラインに基づいた活動方針が策定された。学校の教育目標を達成するための適正で効果的な活動のあり方を目指す必要がある。また、魅力ある学校づくりにつながる、生徒が本気で打ち込める部活動にしていかなければならない。		
		⑤ 生徒会代議員会を年3回以上開催し、生徒会の活性化と自治意識の涵養を図る。						
3 安全安心で元 気な学校づくり	いじめ対策	① 生徒が抱える悩みや課題を早期に見出し適切に対応するために、面談週間等を活用した生徒面談を年2回以上実施する。また、保護者との信頼関係を構築するために、保護者面談等を行う。さらに、定期的にアンケートを実施する。	教職員による評価の平均がC以上になること。	いじめ防止基本方針の策定・いじめ防止対策組織の設置に基づいて年間計画を作成し継続的・組織的に取り組んだ。県教育センターのいじめ防止対策支援プログラムを利用したグループエンカウンター職員研修会といじめ防止のための特別支援に関する職員研修会を行った。その研修の成果を生かして、またQ-U検査等の客観的データを分析しながら、クラス担任はもちろん全職員が、一人一人の生徒を大切に真摯に向き合うことに努めた。その成果が学校全体の比較的落ち着いた良好な雰囲気につながっている。	B	今後とも、いじめに対する組織的な対応の必要性や、いじめ問題が起きにくい集団づくりについて研修を深め、いじめ防止に向けた組織的強化と対策の充実を図っていききたい。「いじめアンケート」は家に持ち帰らせて記入させ回収している。回収が面倒でも安心して書ける配慮を継続しつつ、アンケートがあつてこないいじめを見逃さないように、アンケートを高く鋭敏に磨いておく教師集団でありたい。		
		② グループエンカウンター等いじめ防止のための研修、またはいじめの認識・いじめが発生した場合の対応の仕方等、いじめに関する校内研修を実施する。						
		③ 継続的にネットチェックを行い、Q-U検査等も活用しながら、学年・科を中心に全職員で情報を共有し、加害・被害発生時の未然防止に努める。						
		④ いじめ防止に関する様々な取り組みについて、PTAや関係者等に伝え、連携を図る。						
	保健衛生 安全指導	⑤ 定期健康診断の受診勧告書を迅速に配布し、学年や保護者と連携しながら受診率の向上を目指す。(歯科・低視力者の受診率40%以上)	教職員による評価の平均がC以上になること。	地域やPTAと連携しての交通安全街頭指導や外部講師による薬物乱用防止講話・情報モラル講話・交通安全講話等を実施して、健康や安全に関する意識を高めることができた。	B	歯科・視力の受診率の向上はまだ課題となっている。保護者と連携しながら、より一層健康・安全教育を進めていきたい。		
		⑥ 地域やPTAと連携し、街頭での交通安全指導と通学路の安全点検を年2回以上実施する。						
		⑦ 薬物、情報機器、防犯、交通に関わる講話を実施する。						
3 地域に信頼される学校づくり	地域連携 情報公開	① 全校生によるボランティア活動や地域と連携した活動を年1回以上、生徒会や工作部等によるボランティア活動を平均して各学期に1回以上になるように実施する。	教職員による評価の平均がC以上になること。	全校生によるあやめ公園清掃ボランティアや生徒会によるフラワー長井線車両清掃のランティアの他にも、吹奏楽部の施設演奏会、工作部による「おもちゃの病院」等、多方面でボランティア活動を展開することができた。また、全校課題研究発表会をはじめ、本校性の様々な活躍が山形新聞等の新聞に掲載されたことに加え、学校見学も積極的に受け入れ喜ばれた。地元企業を知ることができる「校長室通信」を地域の中学校の各HR教室に配布し、ホームページもリニューアルし、学校広報活動は活発化した。	B	今後とも粘り強く本校の魅力を地域の中学生・保護者に伝えていきたい。また従来地域と協働して行ってきた様々な取り組みをブラッシュアップし、一層魅力ある学校づくりに職員一丸となって取り組むたい。		
		② 連携校(芸工大・産技短)等との協力を密にし、相互交流を2回以上実施する。						
		③ ホームページ更新を図り、本校教育活動の情報発信に努める。						
		④ 学校案内パンフレットを複製し地元の中学校や企業に配布して、本校の教育活動に対する興味・関心を深められるよう努める。						
		⑤ 中学生学校説明会を実施し、中学生・中学生保護者の本校の学習内容に対する理解を深められるよう努める。						